

菊川市 第1回協働の指針策定委員会 議事録（概要版）

会議概要

日 時：平成30年8月3日（金）午前9時30分～午前11時30分

会 場：菊川市役所本庁2階 庁議室

出席者：策定委員 10名

日詰委員（専門家）、酒井委員（自治会）、赤堀委員（コミ協）、堀委員（NPO法人）、鈴木委員（任意団体）、藤江委員（企業代表）、野崎委員（ボランティアセンター）、笠原委員（市民協働センター）、海野委員（学生）、浅羽委員（行政代表）

市 役 所 赤堀副市長

地域支援課 鈴木課長、赤堀係長、山内係員

開会

あいさつ

副市長あいさつ

委嘱状交付

各委員に委嘱状を交付。代表で日詰委員に授与。

委員長、副委員長の選出

事務局一任により、事務局案提示。

委員長：日詰 一幸 氏 副委員長：酒井 幸寛 氏

委員より承認を受ける。

委員自己紹介

委員名簿順に自己紹介

事務局紹介

協議内容

（1）協働の指針策定の経緯について・協働推進のこれまでの取り組みについて

事務局から資料に基づき説明

委員長：この様な形で菊川市ではとても良い活動がたくさんあるなと思いました。

こういった活動がさらに伸ばせるようにお力添えをしていただければと思います。

（2）協働に関する意識調査（市民・団体）について

事務局から資料に基づき説明

委員長：市民協働に関しての意識調査ということで、非常に興味深いデータが出てきたと思います。内容につきまして皆さまご質問やコメントがございましたらお願いします。

相談を受けるといえば協働センターがあるんですけども、社協の方でボランティアセ

ンターがあるということです。こういったデータを見ながら指針の方に活かしていけたらと思うのですが市民の皆さま、協働については十分に理解されていないということですね。団体の皆さまは日常的な活動の中で重要性、大切さが比較的理解されているんじゃないかと思います。こういった意味でのギャップはあると思います。

どうでしょうか、企業の立場で行政と市民活動団体の連携とか。

委員：そうですね、費用対効果や CSR 活動の所があると思うのですが会社組織ですので色々な縛りがあります。

委員長：ありがとうございます。菊川市の団体の中で企業との関係性を意識して活動していたり、企業とこういうような形で関わりたい団体はあるものですか。

そういうようなニーズはあるものですか。

委員：実際、一般的な市民団体は企業さんに資金の提供を求めるといっていますが、CSR については企業さんの特性を活かして自分たちの活動と一緒にやる団体はわずかですがあります。それこそ一緒にやらせていただいております。

委員長：そこはどんな連携があるのですか。

委員：本社、工場と団体と三者間で連携ということで技術面だったり現実的な所もあるし。

委員長：今まで協働は行政と NPO 法人、市民活動団体との関係性は結構あったんですけど、最近企業の方が来られてさらに幅が広がって新しい課題解決の方向性に向かっている。行政と市民活動団体、NPO 法人だけの関係ではなく企業が入って来られるような土俵作りがあった方がいいと思いますね。

さっき御指摘がありましたが、NPO ができた 2000 年の頃、企業の皆様、NPO を敬遠されるんですね。お金のことをおねだりされる。それが嫌だと企業の皆さまから敬遠される時期もあったのですが、逆に NPO の方々に関わることによって新たなビジネスチャンスが生まれたりとか、いろんなヒントが出て商品開発に結びついたりとかのケースが出て来るんですね。

そういう意味では NPO の皆さまや市民活動団体の皆さまとつながることが決してネガティブなことではないというような認識も出てきていますし、一方では企業の社会貢献活動ということで企業が社会に貢献しているうことを見せる為に、その戦略の一環として NPO や市民活動団体とつながるとい形があります。色々な意味で双方が得をする関係になればいい訳なのでお互いに連携し合えばいいかなと思います。他に皆様からありますか。

委員：せんがまちの方では企業が協賛という形で入っています。資金面の方もそうですが、棚田という形でなかなか機械が入れないということで、どうしても手での作業になります。人員という部分で活動の方に参加していただいております。

委員長：企業の方のボランティア活動の一環としてはいられるんでしょうか？

委員：そうだと思います。イメージアップということでHPとかに載せているということは伺っています。

委員長：県内にも棚田ということでいくつかございますので、松崎とかですね非常に有名な活動で。今まで手が入らなかったところに NPO の皆さまが入り、地域の活性化に貢献してらっしゃるといことが一つのきっかけになって新しい価値がそこに生み出される。

夜になるとライトアップが幻想的でいいということで、観光のスポットになる訳ですよ。今まではそういう所がなかったけれど、NPOの皆さまがそういった地域の資源に目をつけて活用することによって、新しい観光のスポットが生まれてくるというのが結構ある訳です。そう意味では非常にNPOの活動は大事で、そこに企業の皆さまが関わっていただいて貢献していくことでさらにその活動の幅が広がっていく。そこに関係性をたくさん作っていくということがとても大事じゃないかと思います。

それでは今後、指針の議論をしていくときに意識調査は参考にさせていただくということ

(3) 協働の指針の構成(案)について

事務局から資料に基づき説明

委員長：資料をベースに今回、私どもが協働の指針を策定するとして、どのような内容で策定したらいいのかということでその柱となる所をご紹介いただいたのですけれど、いかがでしょうか。構成案を見てこういったことももうちょっと検討したらどうかとか色々な御意見おありかと思うのですが、まだ時間ございますので、質問でも結構ですし何か御意見ありましたらお立ち頂きたいと思います。

委員：よろしいですか。庁舎東館の建設の話があると思うのですけれど、あそこと協働の関係の何か話はあるのですか。

事務局：はい、役所と東側の県道を挟んだ向こう側に足場がかかっているところがあるのですが、それまで商店の仮設店舗があったところ今撤去しておりまして、そこに2020年の4月に庁舎の東館を新設する予定がございます。

御質問はその建物との関係性ということだと思われるのですが、今北館にある市民協働センターは東館の2階に移転をするという計画案で進めています。その他、地域支援課につきましても今の場所から東館の2階に移転をいたします。市民活動の中心は東館に移して新たなスペースを活用していただきながら、活動を展開できるような形にしていきたいと思ひまして、地域支援課と市民協働センター以外に多目的に使えるフリースペースも配置する予定でございます。

センターだけでなくフリースペースの方も活動の広がりとしては可能性があるかなということで、現在設計を進めているところです。

委員：指針の中にその辺は何か入ってくるのかなと思ひまして。そこまで具体的な所なのかわからないですが。

事務局：指針の中に建物そのものを謳うということはないかと思ひますが、契機としてすでにある市民協働センターが移転してその機能の強化といった面で言及するものがあれば可能性としてはあるかもわかりませんが、センターも新たに設置する訳でもございませんので、現実論としてはセンターがある事を踏まえた中で御検討いただければそこに大きな変化はないのかなと認識をしています。

委員長：今の質問と回答の中で市民協働の拠点というものの整備がある程度進むという理解でよろしいですか。

事務局：はい、そうですね。

委員長：他にいかがでしょうか。

委員：事務局から提案された指針の構成・骨子で、骨子の中に入れて議論しなければいけないでしょうけれど、我々として踏まえておかないといけないのは、これまでの取組の現状をきちんと認識をして、そこから出て来る課題ですよね。地域課題という意味の課題ではなくて市民協働についての課題をきちんと把握して、委員長から市民の方と団体と企業さんの参画がまだまだという課題があって、そこにとどまっている原因。これをきちんと分析するという事は大事なんじゃないかなと思います。

委員長：何かレスポンスありますか。事務局の方で。

事務局：そこは大事だと思っておりますので、その部分を菊川市として平成 17 年からやっている部分がありますので、総括といいますかしっかり踏まえて、その上でという形にはしていきたいと思っております。

委員：資料で他市の例示がありました。これを見ていきますと、協働の指針・行動計画ということまでここに書いてあります。これ開いてみますと左から方針があって行動計画、具体的な事業例がありますのでどれくらいのものまで考えていくのか。

例で言うと行動計画まで組み込んだものが表示されていますので。菊川としてどれくらいのものまで真ん中の行動計画大きなこういう物だという位まで示すものなのか。

事務局：基本的には指針ということで、各事業を行い、その進捗管理まで持っていく段階ではない、第一歩目という所です。行動計画まで行かなくてもある程度、こういったことを市としてあるいは市民との協働でやっていく部分に関しては、具体的なものも当然盛り込んでいくことになると思っています。そこは案で出せないの、今後素案になっていく中で色々考えながら提示をしていきたいと考えているところでございます。また庁内の調整も重要になってくるかなと思いますので、庁内の検討委員会で図りながら詰めていきたいと思っております。

委員長：他にいかがでしょうか。細かいところになりますけれど、コミュニティ協議会の会長さんも御出席であります、コミュニティ単位の色々な組織との関わりというのは大事になってきていてやはりそういう団体との関わりはどうなのかということも踏まえておかないといけないと思います。

まちづくりを最前線で関わっていらっしゃる組織がいろいろあるわけですから、そういうところとの連携ということも当然大事になってきます。非常に大きな枠組みで考えていらっしゃるわけですが、例えば市民協働の基本的な考え方の中でプラットフォームというものをどういう風にイメージするのかということが凄く大事になってくると思います。コミュニティ協議会だとか自治会を中心とした自治会組織、そういう物が不可欠だなと思いますので一緒に考えていきたいと思っております。

新しい時代の流れというものがどうしても出てきます。新たに情報化がかなり進んでいるという今の状況の中で、AI とか総合戦略に組み込まれつつあるんですけど、そういうものも市民活動の中に入れ込まないといけないといけない。ある程度 10 年とか 20 年とかを視野に入れながらですね指針を考えていくといことは大切だと思います。

時代の動向とか例えば今我々が大学の中で言われているのは、2040 年と言われます。

2040 年というのは高齢化にしても 18 歳人口にしても相当な転換点になると言われてい

る訳です。その辺りを視野に入れながら指針を作っていくと。あと 20 年位の期間、ちょっと長い気はしますけれど、ここ 5 年から 10 年くらいの所を視野に置きながら市民活動との協働のあり方を考えていくことが大事なかなと思います。

(4) 協働の指針の策定スケジュールについて

事務局から資料に基づき説明

委員長：ありがとうございました。今後の策定スケジュールということで説明していただきましたが質問ありますでしょうか。それではこのスケジュールで策定までいきますのでよろしくお願い致します。それでは委員の皆さまから何かございますか。

よくこういう場で活動団体のみなさん大勢いらっしゃっているのだから情報交流ということで、チラシをお持ちになられたりとかありますので、ぜひお使いになられたらと思います。

委員：きくがわ未来塾で行った活動で本旅図書室、駅前のシェアスペース、サンカノーという市民に開放している場所があるのですがここに本箱を設置させていただいて、見終わった本の感想をつけて皆で作る図書室という活動を始めました。まだ始めたばかりで本も個性派、本がたくさんあるという訳ではないのですが、図書館との違いが、想い、人の顔が見えるというか市の誰かとの交流が出来ればと思い始めました。月に 1 回くらいこの本の紹介をしながらお話をする通学区カフェと本カフェとコラボして空き家を活用してメンバーの実家が空き家で、そこに月 1 回そこに集まって話をするということをしています。

委員：きくがわ未来塾の中に大学生が 3 人もいます。中高生への支援は協働センターさんもされているのですが、大学生が余り活動できる場が菊川市内だとないので、東館の多目的スペースにより大学生の活動が活発になればいいなと思いました。

委員：協働センターを始めて今年で 3 年目何ですけれど変わってきているのが、中学生、高校生の動きです。小笠高校さんから地域の活躍している方を是非紹介して下さいという要請を受けて、1 人 90 分の授業を行った。高校生がその事業を受け、地域課題を感を提案していくというのをして、凄く可能性を感じました。

委員：人を集めるがなかなか集らない。ある程度仕込みが大事で、1 人団体の人がいればある程度、民生委員とか生涯学習委員とかの人を集めてやる場合は 1 人 2 人連れてきてもらう。そう言うと段々広がっていく。人を集めるのに非常に苦労します。

委員：ボランティアセンターに登録をいただいているグループが市内の全てのグループではないですけど、42 グループあります。その中で協働センターさんの方にも登録を頂いているグループも一部あると思うが、本当に古いグループは昭和 40 年代にスタートしています。凄くボランティアがさかんに発展したというか、そういう時代と今の時代で市民の皆さんの状況、特に女性の状況が変わってきてまして、先ほどのアンケートの中でも人手不足とか後継者不足というようなことが出てきていますけれどまさに、後継者不足人手不足、高齢化というのは問題だなという風に思っています。

菊川市は合併当初から教育委員会にボランティア支援センターあるんですけど、なんとなく高校生までのボランティアの窓口は教育委員会、大人のボランティアを社協とい

うような役割分担で進めてきているところがあって。合併前からの流れで社協にも高校生のボランティアグループがありました。今は休館状態で、こちらのボランティアセンターで若い人が本当に少ないです。社協のボランティアセンターでも現状としても若い方との関わりというのは深めていきたいなという所で、先ほど指針の話の中で思ったのは、市民協働の活動を進めるうえで活動できる場とかそういうのも大切な資源だと思うんですけど、市としても地域としてもその中に市民協働を進めるうえでどういった資源がソフトの面でもハードの面でも眠っているものがあるかもしれないし、そういうのも把握していくのも大切だと感じました。

委員：自治会の関係から言うと、菊川は田舎ですけれどもその中でもさらに田舎ですので、人とのつながりが強い。大変コミュニティとしては良い関係になっているんですけど、それでもやはり子育て世代であるとか現役世代の人達の関わりというのは、低いということでは課題であると思います。どうやって変わっていくか、子育てをしてらっしゃる若い世代が興味を持っていただけるようなことをやっていくことが大切かなと思います。

委員：NPO からですとマンネリ化が課題となっていますので、毎年何か新しいことができないかということで、里山再生クラブさんと一緒に竹細工の講座をやってみたり、流しそうめんを地元でやろうという形でマンネリ化の対策を色々講じているみたいです。例えばコミ協さんとか自治会さんも同じような課題があると思うので、企業さんや学生さんの力というものを使いながら打開していけるような指針が出来れば良いなと思います。

委員：協働したい相手というのが企業ということが分かりましたし、それに答えられるようなwin-winの関係でやれば良いと思います。そういった情報の場がもうちょっとわかりやすく出来れば、さらに協働できる機会が増えていくなと思います。これも課題なのかなという思いです。

閉 会